

極めた品質でスイートピーの価値を向上

執筆 東三河農林水産事務所田原農業改良普及課

氏名・産地名	J A愛知みなみスイートピー 出荷連合
経営類型・作目	施設花き（スイートピー）
市町村	田原市



出荷連合の生産者

1. 経営・産地概要

- (1) 栽培面積 施設 188 a
- (2) 部会員 10 名
- (3) 販売 共選共販による全量市場出荷

2. 取組の経緯

(1) 品質日本一への挑戦

スイートピーは蝶を連想させる可憐な花形と甘い香りが特徴的な花です。田原市では11月から4月にかけて収穫されます。

昭和50、60年代のスイートピーは1本平均単価が50円台でした。しかし、バブルの崩壊や九州に大産地ができ流通量が急激に増加したこと等を受け、平成初期には1本30円台まで下落しました。そこで生産者は他産地を上回る高品質の花を出荷して市場から認められる必要があると考え、平成7年にJ A出荷部会（現J A愛知みなみスイートピー出荷連合（以下、出荷連合））を立ち上げて、高品質化へと舵を切りました。



ほ場の様子

(2) 高品質化に向けた技術革新

出荷連合は全国のスイートピー産地や市場、他の園芸品目を視察調査し情報収集に励み、資材業者等とも連携して現地試験を繰り返すことで、独自の技術を開発してきました。

【誘引方法】

従来のひも誘引よりも採光性が良く、誘引作業も簡便となるような支柱誘引の方法を「専用固定具（止め吉）」を開発すること



支柱誘引と「止め吉」

で実現しました。

【播種・マルチ】

従来はマルチ後に播種用の穴を一つ一つ開けて点播していましたが、穴開け不要で播種後にマルチングできる「スリット入りマルチ資材」を開発しました。播種作業が大幅に省力化され、播種の均一性が高まることで初期生育も向上しました。



スリット入りマルチ

【品種】

オリジナル品種の育成を積極的行っており、現在出荷している品種の 7 割以上がオリジナル品種となっています。

【スマート農業技術】

環境モニタリングシステムとヒートポンプを導入することで、ハウス内の環境制御の精度が向上し、夜冷による 11～12 月の収量・品質の向上や、除湿による花シミの防止につながりました。

（３）出荷連合全員で臨んだ販売戦略

高品質なもの（見栄えや日持ちがよいもの）をロスなく 100% 消費者に届けたい、との思いで等級の基準について大産地との差別化を図りました。本当に良いものだけを秀品に格付けする厳しい等級基準を打ち出したのです。はじめは出荷連合内でも基準が厳しすぎるとの意見が出ましたが、市場への聞き取り調査などを行い、全会員が納得できる材料を十分に揃えることで実現しました。さらに、市場からの信頼を高める取組として、出荷前検査のダブルチェック体制（出荷連合役員と J A 専任職員による検査）や、出荷物の品質保証を行っています。

また、新たな箱詰め方法も開発しました。花を隙間なく上に向けて配置し、ステム（茎）の部分で箱にしっかり固定する方法です。そうすることで箱を開けたときに極めて華やかなだけでなく、輸送中に花が動かず傷みにくいという利点があります。

現在、出荷連合全体の秀品出荷率は 10～15% 程度です。それだけ等級基準が厳しいことの現れですが、その姿勢が市場の信頼を呼び、秀品はもちろん、優品でも他産地の秀品以上の評価を受けています。



箱詰めされたスイートピー

（４）ブランドの確立・輸出の取組

こうした取組により、近年の出荷連合のスイートピーは、1 本平均単価が全国平均の 1.6 倍以上となるほど高く評価されています。「高値でも J A 愛

知みなみスイートピー出荷連合の花が欲しい」と言わしめるブランド力を確立しています。出荷連合がやり遂げた品質の高位平準化は輸出適合性が高く、海外のニーズにも対応しているため、JA愛知みなみのスイートピーとして農林水産省の「フラッグシップ輸出産地」に認定され、令和3年度には香港、アメリカ、シンガポールに87,800本（全出荷量の約5%）が出荷されました。海外では「日本で一番のスイートピーは、世界でも一番のスイートピーである」として、1本500円以上で販売される事例もあるなど、日本の繊細な栽培管理技術が生み出す高品質農産物として存在感を高めています。

Copyright (C) 2025, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.